

「金魚の糞」ブータン編 前篇

A52IVU 北井 十生

1 まえがき

2013年の6月か7月ころ、東條さんから10月に「ブータン」へ行かないとお誘いがあり、二つ返事で「行きます」と……なぜ「ブータン」へと

それは、2011年3月11日14時46分 東日本大震災が起こり、津波、原発事故と大きな被害となりました。(そのとき私は地球の裏側 ブラジルのリオにいた。)

その後、ブータン王国ジグミ・ケサル・ナムゲル・ワンチュク国王とジェツン・ペマ・ワンチュク王妃が2011年11月に来日され、そのさわやかさは日本中で大きな話題となりました。

また、被災地である東北地方を訪問され、被災者に元気を与えていただきました。

そこで、東條さんの友人であり、耳科の医師であり、仙台市で「仙台・中耳サージセンター」を開業されている湯浅涼先生(JH7EQW)は何かお礼をしたいということで昨年からはブータンでの途上国耳科手術支援事業を始められました。

今年10月に第2回目支援事業のためブータンへ行かれるということでそこで無線をやってみようということになり私にも声がかかりました。

今回は耳科支援(湯浅涼先生、湯浅有先生、山本悦夫先生、山本裕先生の医師4人、遠藤五百子さんと齋藤晴枝さんの看護師2名)と無線家(科)(湯浅涼さん、東條さん、北井)のグループとなりました。

無線の免許は、以前にブータンで運用された方にいろいろとお聞きし、日本の免許の英文証明書を用意し、現地の旅行社Zhidey Bhutan T & Tの青木さんを通して行い、取得することができました。

ブータンは予め、旅行社を通じて旅行計画書を提出しビザを取得します。必ずガイドが付き交通費(車代)、宿泊料、食費等が決められていますので旅行者は希望すればガイドが連れていってくれます。

私たちの場合は、一つホテルに宿泊し、耳科チームは病院、どこもいかに1日中部屋閉じこもり運用する無線家(科)チームというちょっと変わった旅行者です。

(科)に意味あり、後段で説明します。

2 準備

今回は、荷物の重さとたたかいました。それというも関空?バンコックまでタイ国際航空、バンコック?パロはブータンのdrunkerにしました。関空?バンコックをタイ国際航空にすると関空からパロまで荷物はスルーで行けるからです。

手荷物の重さがエコノミーだと総重量20kまで、ビジネスだと30kと、ということで全行程をビジネスにしました。

ただ、大きさや機内持ち込みなども日本や欧米の航空会社とはかなり小さい。

XTはエコノミーでも23kが2つだったのに……

というわけで今回は「エアアンプなし」で。リグは湯浅さんがFT450D、東條さんがIC7200、北井がTS480HX、アンテナは18?28がミニマルチの2エレ、14?28がHEX-5、1.8- --- -7が40mのLWにしました。

特にロ-バンドのリクエストがあったため9月のはじめの猛暑の中、大和川の堤防で7M、3.5M、1.8Mのダイポール(I.V)と1.8MのLWの実験をしました。このときアースに電線40mを四方に張りましたが一番良かったのは堤防の車止めの支柱できれいにSWRが下がりました。また、HEX-5はXTに同行された宮川さん(JA1CJA)からお借りし、雨の中池田市民会館の裏で展張し、現地において短時間で展開できるよう慎重にたたみました。ミニマルチは重量の関係から今回は18?28のものにし、大和川の堤防で展張し、再組み立てが簡単なように印を付けました。



2013年9月1日 池田市民会館でHEX-5組み立て

各人、持ち物を梱包して計量した結果、湯浅さんが20k、東條さんが30k+10k(ミニマルチ)、北井が20k+10k(H EX-5)+6k(アンテナマスト 同軸)となり 東條さんのミニマルチを湯浅さんに持っていただき、出発地である羽田空港へ先に送りました。

ところが私のバンコック?パロ間のビジネスが取れずキャンセル待ちになっていました。家を出る1時間前に現地旅行社からビジネスが取れたとの連絡があり 急いで印刷して、車で東條さん宅へ行き 関空へ向かい予約していた駐車場へ(何日預けても6000円)

タイ国際航空のカウンターへ 2人分を乗せると70k弱 あらら超えている 心配しているとカウンター嬢 超えていますけどサービスしておきます」とよかったよかった。ただブータン航空はどうなるかわかりません。そのときは追加料金を払ってください。

荷物はパロまでスルーで行くので多分大丈夫???? 深夜の0時30分発なので空港内には乗客が少ない。どうして日本の空港は深夜に乗客はすくないの???? 21時を過ぎればほとんど人はいない。

予定の0時30分すぎ、無事に関空を離陸した。しばらくすると軽めの夕食が出た。

到着、1時間ほど前の朝の4時ころ朝食が・・・まだ眠いバンコック国際空港に到着し、乗り換え口へ、ここで東條さんが機内に上着を忘れたのでみなさんと逆行し、セキュリティを突破して、やっと上着を取り戻せた。乗り継ぎ窓口で羽田から来られた団長の湯浅さん(JH7 EQW)に会った。

追加料金もなく、無事手続きを済ませドレックエアのラウンジへ

6時50分、バンコック国際空港を離陸後、インドのグワーハティーに寄り 一路ブータンへ しばらくすると山頂が白いヒマラヤの山並みが見えてきました。

山と山の間を降下していきます。山の尾根が窓のすぐそばに・・・

広い谷間にパロ国際空港はあり 無事着陸した。タラップを降りて徒歩で出口へ、きれいな独特の建物 入国審査を受け、荷物を受け取り 税関へ なぜかアンテナなどたくさん荷物を持っている私は無事通過したが湯浅さんと東條さんがなかなか出てこない。しばらく待っていると二人が出て来られた。

出迎え口には現地のデキさんがお迎えに。デキさんは日本語の読み書き、会話は抜群。また後で書きますが才女です。



2013年9月12日 大和川堤防でミニマルチ(18-28)組み立て



2013年9月19日 大和川堤防で1.8MHz L.W実験



Bhutan
JAから 方位272度、距離4,300km



2013年10月10日 パロ国際空港で 中がデキさん

第41回SEANETコンベンション レポート

(2013年10月5日から7日まで、横浜で開催) JA3AER 荒川泰蔵

第41回SEANETコンベンションは、2013年10月5日から3日間、ホテル・ナビオス横浜 (Navios Yokohama) を会場に(写真1)、シーネットコンベンション協会 (SEANET 2013 Yokohama Organizing Committee) が主催して開かれました。日本での開催は、我々が主催した2006年の大阪に続いて2回目になります。今回は、海外14ヶ国からの96名に、国内110名の参加者が加わり、総勢206名の大規模なコンベンションになりましたが、我々の大阪国際交流センターラジオクラブからの参加者は、JP1TRJ塚原さん、JA3QUU西間さん、JE3BEQ宮本さん、JR3MVF三好さん、それに私の5名でした。

初日の5日(土)、この日は午前中からボランティアを含め主催者側のメンバーが、会場となるホテルに集まり受け付けの準備をしていました。早く到着した参加者は、ロビーで出迎えるJA1BRK米村会長やJH1XUP前田事務局長達と挨拶を交わし、それぞれ近くのレストランへ昼食に出かけました。

生憎の小雨で横浜ランドマークタワーが霞すんで見えるホテルの横の運河沿いに、JA1CQT中西さんやJN1DNV山岸さん達ボランティアがテントを張って設置した特別局8N1SEAを運用して、ここから全国に向けてSEANETコンベンションのPRをしていました(写真2)。

私はタクシーで横浜港郵便局に出かけ、記念の切手などに横浜の風景印などの消印をもらって、参加記念のカバーを作りました(写真3)。ホテルに戻ると、郵趣家の9W2PD、Rabinさんが来ており、そこにJA4HCK馬場さん達数名の郵趣家が加わり、カバーの交換などハム切手の話に花が咲きました。

午後2時ごろからホテルのチェックイン、続いてコンベンションの受付が始まり、我々大阪勢が協力してCQ出版社で作られた、プログラムや参加者の顔写真などを収めた小冊子(写真4)を含め、記念のP切手とカバー、ユニフォーム等が参加者に配られました。早速お揃いの赤いポロシャツを着込んでの記念撮影など、ロビーは賑やかになってきました(写真5)。

また、日本の女性たちは外国人女性に着物を着せようと着付け教室を開いたらしく、初めて着物を着たという女性たちがロビーに現れました(写真6)。

写真1



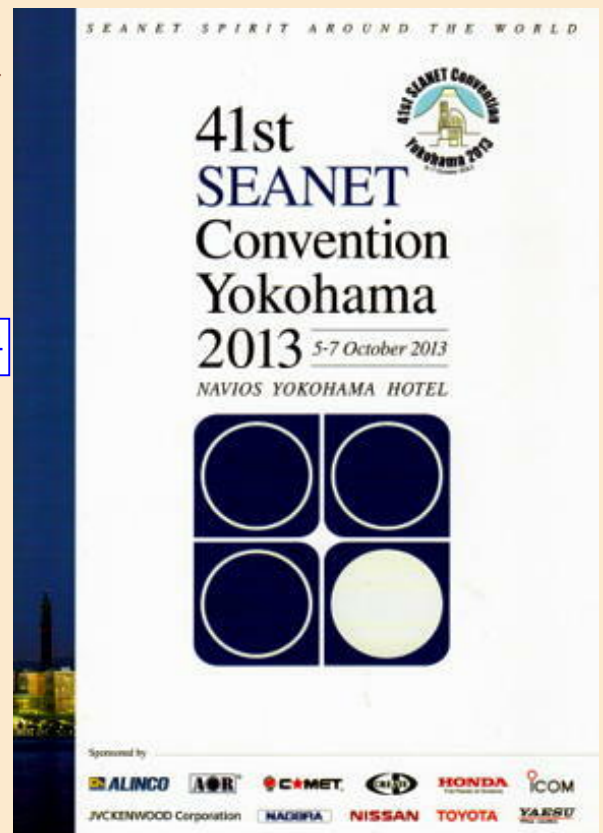
写真2



写真3



写真4



歓迎夕食会(Welcome Party)はJA1LZK海老原さんの司会で始まり(写真7)、JA1BRK米村さんが歓迎の挨拶をしました(写真8)。バイキング形式の立食パーティでしたが会場に入りきれないほどの人達で賑わい、再会を喜び合う人、1stEyeball QSOを楽しむ人など、食事をしながらの和やかな時間を過ごしました。舞台上では、日舞主宰者でタレントの服部真湖さんが、英語で解説しながら日本舞踊を披露され(写真9)、終わった後には記念に一緒に写真を撮ろうと多くの人々が舞台上がりました。途中からJA1AN原さん(前JARL会長)が杖をつきながら、JA0AD小林さんに付き添われて参加され、海外からの参加者とも懇談したり、記念写真の撮影に応じたりしておられました(写真10)。



写真 5

写真 7

写真 8



写真 6



写真 9



写真 10

2日目の6日(日)は朝食後、グループ写真の撮影が行われ(写真11*)、そのまま3台のバスに分乗して市内の見学に出かけました。「横浜外国人墓地」を見ながらバスは本牧の「三溪園」へ、そこで広大な庭園を散策することになり正門を入れてすぐに見える「大池」と「旧燈明寺三重塔」を背景に集合写真を撮影しました(写真12)。庭園の散策後「横浜中華街」でバスから降りてレストラン「廣東飯店」に向かいました。さすがにこれだけの大人数が入れる大部屋はなく、外国人は3階のテーブル席、日本人は2階の畳部屋と別れての食事を余儀なくされました(写真13)。昼食後は「横浜港大さん橋」を見学、ここからの眺めやショッピングを楽しみ(写真14)、その後希望者は「三菱みなとみらい技術館」を見学して(写真15)、ホテルに戻りました。

最大のイベントであるガラパーティは、由緒ある横浜カントリー・アンド・アスレティック・クラブ(Yokohama Country & Athletic Club, YC & AC)で開かれることになり、再び3台のバスに分乗して会場に向かいました。威勢の良い和太鼓の演奏で始まったガラパーティは、シーネットコンベンション協会の米村会長、JARLの稲毛会長の挨拶と続きました(写真16**)。食事はbuffスタイルで長蛇の列が出来ましたが、皆さんそれぞれ好みの食べ物をお皿に盛り合わせ、それぞれのテーブルで歓談しながらの楽しい食事が始まりました。各テーブルにはお茶と水が配られていましたが、宗教上お酒の飲めない人達に配慮してか、ビールやワインなどのアルコール飲料などはキャッシュバーでのサービスでした(写真17**)。



写真 11
 写真 12
 写真 13, 14, 15
 写真 16, 17

食事も一段落したころ、JAIGメンバーでもあり 横浜シティオペラのソプラノ歌手であるJ10SER大堀裕美さんの歌唱が始まりました(写真18)。それを楽しんだ後、恒例の国別パフォーマンスが始まりましたが、アルファベット順でいつもオーストラリアがトップバッターです。参加者の少ない国では、挨拶だけで終わる場合もありますが、一般的にはその国の民謡などの合唱や、それと共に踊りを披露するのが通例です。マレーシアのパフォーマンスの前には、9M2KN, Dr. Kenさんが、JA3AA島さん他、この1年間に亡くなられた3名の物故者を悼もうと呼びかけ、全員が起立して黙祷しました(写真19)。印象に残ったのは今年も華やかな民族衣装の韓国ですが(写真20)、中国から奥さんと初参加のBA5AD, Tin Zhangさんが、一人で舞台に立ち、ジェスチャーを交えて歌いだした勇気には感心しました。

来年のコンベンション開催国インドネシアは、大使館の協力を得てバリダンスを披露するなどして意気込みを示しました(写真21)。参加者には国際結婚のカップルも多く、また外国で生活する人もあって、複数の舞台に立つ人もありました。最後は主催国日本で、日本びいきの外国人も加わって舞台に上がり、忘れませんでした。JE3BEQ宮本さんの指揮で「旅愁」を合唱しました(写真22)。

その後SEANETコンテストの入賞者の発表があり、T32AZ, Kenさんが1位で表彰されました(写真23)。私は残念ながら18位でした。



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23

最後はお楽しみ抽選会です。スポンサー提供のトランシバーなどが当たる度に歓声とため息が聞こえてきました(写真24**)。最後の賞品はホンダの発電機で、最初JA4DPL吉房さんに当たり喜んでいましたが、外国仕様であるため日本人は無効というアナウンスがあり、再度のくじで外国人に当たりました。しかし彼は重くて持ち帰れないし通関も容易でないと、結局JA4DPL吉房さんにホテル代の足しにしたいと買ってもらったようです。

楽しいガラパーティもあつと言う間に過ぎて、帰路はリムジンやタクシーに分乗してホテルに戻りましたが、我々は9M2KN, Dr. Kenさんの和室で深夜までおスコッチを傾けながら歓談しました(写真25**)。

最終日の7日(月)は、総会(Plenary meeting)が開かれ、KH6QJ, Kenさんから T32AZとして東キリバスからSEANETコンテストに参加した時の写真スライドなどでのプレゼンテーションがあり(写真26)、T32AZとQSOした私には、その場でQSLカードを手渡してくれました。続いて、横浜DXクラブのJH1EPI戸塚さんによる、ソフトウェアによるラジオ、SDR(Software Defined Radio)の興味深いプレゼンテーションがあり、最後にYAESU USAのK7BV, Dennisさんが、「Modern HF receiver」と題して、アマチュア無線通信機の歴史を振り返り、最近の通信機について話されました(写真27)。

その後、来年度の開催国インドネシアのYB0KVN, Triadiさんが歓迎の挨拶と共に、開催地Baliをビデオで紹介しました(写真28)。時期は最初10月で発表したが不評なので、11月の第2週末で考えているとのことでした。その上でSEANETのバナーを、JA1BRK米村さんから、YB0KVN, Triadiさんに手渡され、日本からインドネシアに引き継がれました(写真29)。

続いて9M2KN, Dr. Kenさんの司会で、2015年度の開催国を決めることになり候補国を募りました。VU2KKZ, Rajaさんが手を挙げて、インドの南部Kerala州Alleppyにお招きしたいとスライドで説明しましたが、他に何処からも候補の手が挙がらず、賛成多数で2015年度はインドでの開催に決まりました(写真30**)。

お別れの昼食会(Farewell Lunch)は会場にお弁当とお茶が配られ、See you again in Baliを合言葉に別れを惜しまました。そして多くのボランティアに支えられた3日間のコンベンションは、参加者に喜びと満足を与え成功裡に幕を閉じました。 注 : 写真は主催者(*)及び、JA4DPL吉房さん(**)から頂いたものを含んでいます。



写真 24 写真 25
写真 26 写真 27 写真 28
写真 29 写真 30

